

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	周 密
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論 文 題 目			
<p style="text-align: center;">マスメディアに表されるジェンダーの日中対照研究 —歌詞に表される男女像とその言語実践に着目して—</p>			
論文審査担当者			
主 査	教 授	永田 良太	
審査委員	教 授	畑佐 由紀子	
審査委員	教 授	柳澤 浩哉	
審査委員	教 授	深澤 清治	
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、日本と中国のマスメディアに表される女性像と男性像について、歌詞と言語実践としてのインタビュー談話を分析資料として、年代による変化を考慮しつつ、共通点と相違点を明らかにしたものである。</p> <p>日本のマスメディアに表されるジェンダーを明らかにしようとするとき、同じく男性優位社会と言われる中国と比べることで、その特徴をより詳細に捉えることができる。また、本論文で分析する「歌詞」というメディアに表されるジェンダーは、トーク番組の言語実践によって構築され、日常化されていくことが指摘されているが、先行研究ではメディアにおけるジェンダーの言語実践について、対照的な視点から分析がなされていない。さらに、ジェンダーに関する先行研究では女性像に着目されることが多く、男性像については明らかにされていない。</p> <p>先行研究に残されたこれらの問題点をふまえ、本論文では以下の研究課題が設定されている。</p>			
<p>(1) 日中の歌詞に表される女性像にはどのような特徴が見られ、それらの特徴はどのように変化しているか。また、日中の女性像は男女話者の言語実践を通じてどのように表されているか。</p> <p>(2) 日中の歌詞に表される男性像にはどのような特徴が見られ、それらの特徴はどのように変化しているか。また、日中の男性像は男女話者の言語実践を通じてどのように表されているか。</p> <p>(3) 日中で、歌詞・言語実践を通して表される男女像にはどのような共通点と相違点があるか。また、それらを生じさせる要因は何か。</p>			
<p>本論文は、全6章で構成される。論文の構成は次のとおりである。</p> <p>第1章では、マスメディアに表されるジェンダーについて、歌詞と言語実践の観点から日中を対照して分析する必要性と意義が述べられている。</p> <p>第2章では、日中のジェンダーに関する先行研究および日中対照の観点からジェンダーについて論じた先行研究を検討することで、本論文における分析の枠組みを得るとともに本論文における研究課題が導出されている。</p>			

第3章では、日中の歌詞に表される女性像の 카테고리を抽出した後、日中の歌詞に表される女性像が、マスメディアの言語実践においてどのように語られるかが分析されている。歌詞に表される女性像を分析した結果、日本では9種類、中国では10種類の女性像が表されていたが、それらの中には時代とともに変化するものが存在することが確認された。また、歌詞に表される女性像のうち、日本では7種類、中国では6種類の女性像が言語実践であるインタビュー談話においてもそれぞれ見られ、会話の参加者相互の言語実践の中で具体化され、構築されていた。

第4章では、歌詞に表される男性像とその言語実践が分析されている。その結果、日本では12種類、中国では10種類の男性像が歌詞に表されていたが、それらの中には年代とともに変化するものが見られた。また、歌詞に表された男性像のうち、日本では9種類、中国では7種類の男性像が言語実践においても見られ、女性像と同様に、具体化され、会話者相互のやり取りの中で構築されていることが確認された。

第5章では、日中のマスメディアに表される男女像の共通点と相違点について、先行研究と比較しながら考察されている。日中の歌詞には「従順である、犠牲者である、人のリードを必要とする」女性像や「挑戦的である、負けず嫌い、冒険する」男性像といった共通点が見られた。一方、「性的存在として見られる」女性像や「性に対する強い関心を有する」男性像のように、日本の歌詞に特徴的に見られるジェンダーとの相違点も確認された。それらの相違点は、それぞれの社会におけるメディアのあり方と密接に関わっており、メディアとジェンダーを考える際には、社会的・人為的な制約の中でジェンダーの構築が行われていることも留意する必要があると示唆された。

第6章では、本研究で得られた知見がまとめられるとともに、今後の課題が述べられている。

本論文は、次の3点で高く評価できる。

1 点目は、日中対照の観点から、歌詞に表されるジェンダーを分析し、時間的変化を考慮しながら日中の共通点と相違点を明らかにした点である。等質性の高い資料をもとに明らかにされた本論文の結果は、日中の歌詞に表されるジェンダーの特徴を捉えたものであると言える。

2 点目は、同じく日中対照の観点から、メディアの言語実践に表されるジェンダーを分析し、日中の共通点と相違点を明らかにした点である。加えて、メディアにおける会話の参加者相互の言語実践によってジェンダーが構築される過程を明らかにした点も、新規性に富むものである。

3 点目は、歌詞とインタビュー談話の言語実践という異なるメディアで構築されるジェンダーの異同を明らかにした点である。これにより、日中でメディアの形態に関わらずに構築されるジェンダーと各メディアに選好的に構築されるジェンダーがあることが明らかになり、メディアとジェンダーの関係がより明確になったと言える。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和2年2月12日